

編集・発行
 西砂会館
 管理運営委員会
 委員長 渡辺 茂

立川市西砂町5-11-13
 電話：042-531-0066

印刷：マスタ印刷
 電話：0428-22-3047



新年を迎えて

管理運営委員会
 委員長 渡辺 茂



新年あけましておめでとう
 ございます。旧年中は新型コ
 ロナウイルス感染拡大防止の
 ため、長期にわたり制限付き
 でご利用頂くこととなり、皆
 様方には大変ご迷惑をおかけ
 しました。

令和3年12月は国内の新型
 コロナの新規感染者数は抑え
 られましたが、新たな変異株
 であるオミクロン株が全世界
 中で確認され、1月になって
 新規感染者は急激に拡大して
 います。今後も引き続き一部
 制限付きのご利用をお願い致

します。利用に際しましては、
 3つの「密」を避けるととも
 に、マスク着用・手洗い・消
 毒の励行を重ねてお願い致し
 ます。

令和4年の最初の事業は一
 月九日に「まゆ玉作り・まゆ
 玉飾り」を行い、当館一階ロ
 ビーに飾りました。

むかし、西砂川地域は養蚕
 が盛んで、養蚕農家とその年
 の「まゆ」の豊作を願って、
 まゆに見立てて団子を作って
 飾り、小正月に団子を焼いて
 食べていたとのことです。当
 館ではこのまゆ玉飾りを伝統
 行事としてとらえ、毎年一月
 第一日曜日に行っています。

さて、令和4年3月6日に
 予定しておりました令和3年
 度最後の事業「西砂会館まつ
 り」は打ち続くコロナ禍のた
 め昨年同様中止といたしまし

た。令和4年度は、コロナ禍
 も収束し盛大に開催出来るこ
 とを願っています。

会館運営ならびに開催行事
 等の活動に対して地域の皆様
 方のご支援、ご協力を頂きま
 す様お願いいたします。



西砂会館まつり 中止のお知らせ

令和四年三月六日に予定
 しておりました「西砂会
 館まつり」はコロナ禍の
 実状に鑑み中止といたし
 ました。

『防災訓練と利用者懇談会』

昨年十月十六日（土）に防災訓練と利用者懇談会が行われました。当日は会館の役員である塚本さん（東京消防庁防災指導員）に講師をお願いしました。

始めに東日本大震災の様子をビデオで映して頂き当時のことが昨日のこの様に思い出されました。

次にAEDの使い方を最初から正しいに教えていただきました。



『命を救う応急手当』

①肩を軽くたたきながら声をかける。
②反応がない、又は判断に迷う場合は、大声で助けを求め一一九番通報とAED搬送を依頼する。
（一一九番通報時や出場する救急隊から応急手当のアドバイスを受けることができます）

③呼吸を確認する
胸と腹部の動きを見て、「普段どおりの呼吸」をしているか、十秒以内で確認します。

④普段どおりの呼吸がない、又は判断に迷う場合は、すぐに胸骨圧迫を30回行う。
（胸骨圧迫は胸の真ん中）

⑤訓練を積み技術と意思がある場合は、胸骨圧迫のあと、人工呼吸を2回行う。ただしマウスピースがない場合や血液曝露の恐れがある場合は行わない。



⑥AEDが到着したら、まず電源を入れる。
（ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります）

⑦電源パッドを胸に貼る
電源パッドを貼る位置は電源パッドに書かれた絵のとおり皮膚にしっかりと貼り、体が汗などで濡れていたらタオル等で拭き取って下さい。

⑧電気ショックの必要性は、AEDが判断する
◎心電図解析中は、傷病者に触れてはいけません。

⑨ショックボタンを押す
（誰も傷病者に触れていないことを確認したら、点滅しているショックボタンを押します。以後はAEDの音声メッセージに従います。



最後に表に出て消火器の取り扱いと訓練を一人づつ行いました。



『まず行動 救える命 あなたから』

茶の間の風土記

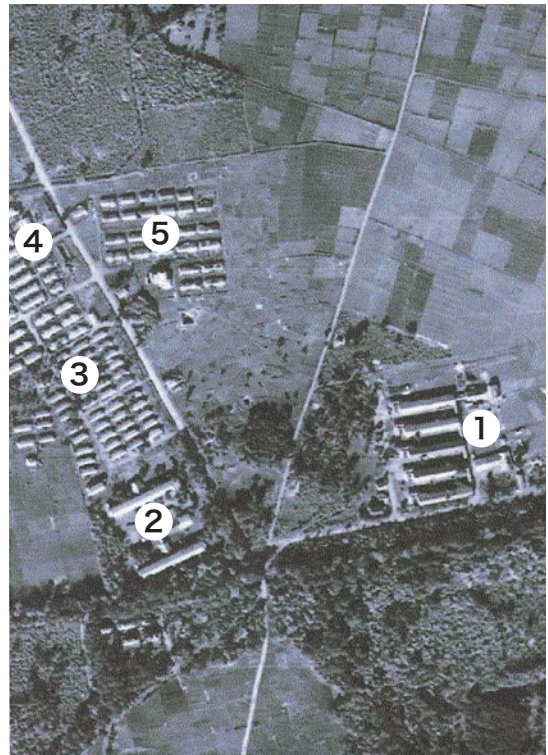
玉川上水に銃弾遺棄

一六五四年開通されたと言われる玉川上水、昭和一八〇二〇年頃では、石積みやコンクリートの護岸は殆ど無く、水路を掘り上げた両岸の土揚げに生えた木々の根が水際で絡んで露出している状態でした。

現「湯楽の里南東に拝島上水橋」があります。通学で毎日この橋を往復する私達子どもにも「上水は飲料水なので葉っぱや小石一つ

でも川の中に落としてはいけない」と、躰けられていました。

そんな大切な上水に、駐屯していたツバメ部隊(写真①)が、終戦時にあろうことか、蜜柑箱大の木箱に詰まった銃弾を上水に捨てて解散してし



まいました。

長い延長の上水は頻繁に護岸工事が行われ、そのたびに水を止めるので、自由を唱える人々が多くなった当時、子ども達の私達もそれまでの習わしを無視して、上水の水が流れていない時は川の中に入り、ドジョウ・ギバチ・カニ等を追いかけているうち、銃弾の箱を見つけ、学校から帰ってきては弾頭部と薬莖部を釘でコジリ離して、火薬を

出しては空き缶に溜め、その量を競うようになりました。

当時、物不足の時代なので、短くなった鉛筆には金属のサックをはめ、長くして使っていました。そのサックに火薬を詰め込んで点火し、飛ばす遊びを始め出したのです。やがてある子どもが中指・薬指・小指三本を飛ばす事件が起きてしまいました。

笠井 信吾

写真説明 () 内は現在

- ① ツバメ部隊駐屯地・間組飯場(旧第3都営住宅払い下げ済・第7都営住宅)
- ② 昭和飛行機青年学校寄宿舎(湯楽の里)
- ③ 昭和飛行機社宅(昭島市エコパーク)
- ④ 昭和飛行機社宅(山林飛行場誘導灯設置場)
- ⑤ 昭和飛行機社宅(昭和飛行機社宅払い下げ済)



「お詫び」

会報五十五号「茶の間の風土記」におきまして、筆者の意図と異なる写真を掲載してしまいました。本誌上をもちまして謹んでお詫び申し上げます。

『まゆ玉飾り』

例年恒例となっており、まゆ玉飾りですが、打ち続くコロナ禍のため中止も考えました。しかし伝統文化の思い絶ちがたく、本年も運営委員のみにて一月九日に実施致しました。

「まゆ玉飾り」は江戸中期頃から養蚕が盛んだったここ西砂川地域でも、小正月の一月十四日にその年の養蚕の豊作を祈願して、「写真」のようなまゆ玉飾りをしました。前の日までに石臼で挽いておいた米の粉を水で練り、繭にみたてた団子にして蒸かします。

その団子を背丈程の檜や樫の木などの枝にさしたものを、石臼の穴に立てて飾ります。団子のほかに蜜柑などもさします。飾りは一月十六日に団子を枝からまぎとり焼いたり、か



ゆに入れたりして食べました。早くコロナ禍が収束し、また、子供達と「まゆ玉飾り」をしたいと願っています。

西砂会館利用案内

「開館時間」
午前九時～午後十時
「利用申し込み受付日」
毎月一日と月・水・金の午前九時～午後五時（正午～午後一時を除く）
※印刷機も有料にて利用できます。（受付時間内）
「休館日」
第二木曜日・第四火曜日
「お問い合わせ」
TEL FAX 五三二一〇〇六六
☆会館内は禁煙です

◆ 編集後記 ◆

「二日の疲れを癒してくれるのは？」と問いかけられ、何を思い浮かべますか。

私は「お風呂」を連想します。

銭湯や温泉に行くとは湯舟に入ると「あく」と気持ちよさそうに声を出す人もいますね。

湯舟の中では、人それぞれ

ですが、その日の出来事を振り返ったり、明日の予定を考えたり、このひとは至福のひと時とも思えます。

そんな至福のひと時である「お風呂」に入れない日が、私の家系ではあります。それは、元日で、お風呂に入ると、その年の福を洗い流してしまふからと言い伝えられており、大晦日の夜遅くに家族全員がお風呂に入り、新年を迎えています。元日はお風呂に入らないので、翌日は朝風呂に入り新年の二日目を迎えます。

身も心もリフレッシュさせてくれるお風呂、入浴剤を入れたり、ゆずを入れたり、皆さんのご家庭ではどうされていますか。

